

地域実践研究成果の紹介

宮城県における「インクルーシブ教育システム構築・『共に学ぶ』教育スタートモデル（試案）」の作成について
－モデル校（小学校・通常の学級）における実践の考察を通して－

特徴

本研究では、実践をもとにインクルーシブ教育システム構築を目指す取組を始めるに当たり必要かつ効果的な内容・方法考察し、小学校の通常の学級における取組モデルを示すことを目的に行われました。

研究成果として作成されたリーフレットでは、「共に学ぶ」教育を推進するための取組内容一覧など、具体的な提案がなされています。

活用していただきたい方

- ・ 小学校・中学校の通常の学級担任
- ・ 小学校・中学校の特別支援教育コーディネーター
- ・ 小学校・中学校の管理職
- ・ 市町村教育委員会担当指導主事

成果の実際と活用場面

- ・ 小・中学校の通常の学級の担任教師に配布し、インクルーシブ教育システムの理解・啓発資料として活用
- ・ 管理職と特別支援教育コーディネーターが校内の体制構築の計画を立てる場合に活用

共に学ぶ教育推進モデル事業

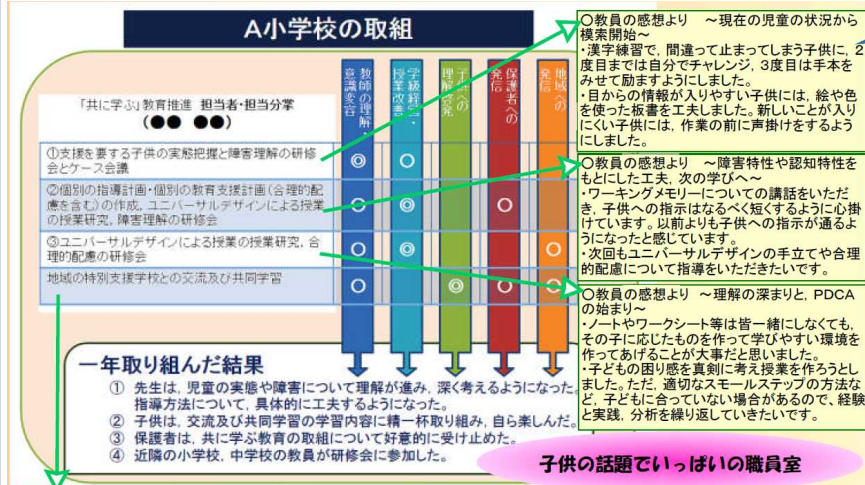
小学校の通常の学級における

インクルーシブ教育システム構築 『共に学ぶ』教育スタートモデル （試案）



インクルーシブ教育システム構築の構造図を示しています。





「共に学ぶ」教育や共
生社会実現の大切さ
は分かる反面、何か
どのように始めたらよ
いか迷っている先生や
学校のために作成さ
れています。

「共に学ぶ」教育推
進の担当者、担当分
掌を決めて、一年目
の取組内容を計画、実施
する内容となっていま
す。

提案内容

「共に学ぶ」教育をスタートする一年目の取組について、モデルを提案します。放課後や夏季休業期間などを利用して、年3回、教員で取り組む内容です。それ以外に、子供たちが主体的に取り組む「交流及び共同学習」を提案します。

① 支援を要する子供の実態把握と障害理解の研修会とケース会議

各学級の特別な支援を要する児童について、専門家による観察結果と障害を考慮した解釈を聞きながら、教職員全員で研修と情報交換を行います。

② 個別の指導計画・個別の教育支援計画(合理的配慮を含む)の研修会と作成

個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用について研修しながら、学校独自の様式と実際の記入内容を合わせて検討します。特別な支援を要する児童、全員の作成を目指します。

③ ユニバーサルデザインによる授業づくり・学級づくりの研修会と授業実践、授業研究

ユニバーサルデザインの授業づくりを行い、その授業検討会と研修会を合わせて実施します。実際の授業について分析することで、ユニバーサルデザインによる授業づくりについて理解を深めます。特別な支援を要する児童だけでなく、全ての児童のための分かりやすい授業づくりを目指します。

「共に学ぶ」教育を推進するための取組内容一覧	
1 特別支援教育に関する研修会	10 地域の特別支援学校との交流及び共同学習
2 共生社会、インクルーシブ教育システム構築、合理的配慮等に関する研修会	11 障害理解、自己理解に関する授業実践と授業研究
3 支援を要する子供の実態把握と障害理解の研修会とケース会議	12 特別支援教育や「共に学ぶ」教育をテーマとした共同研究
4 個別の指導計画、個別の教育支援計画(合理的配慮を含む)の研修会と作成	13 多様な学びの場の設置(特別支援学級、通級による指導)
5 自立活動に関する研修会と授業実践、授業研究	14 保護者との連携
6 ユニバーサルデザインによる授業づくり・学級づくりの研修会と授業実践、授業研究	15 校内の引継ぎとシステムづくり
7 主体的・対話的で深い学びを目指した授業実践と授業研究	16 外部との引継ぎとシステムづくり
8 学力保障、補充の取組	17 関係機関との連携とシステムづくり
9 校内での交流及び共同学習	

具体的な取組内容も示しています

詳しい内容
は報告書
をご覧下さい

地域実践研究 インクルーシブ教育システムの 理解啓発に関する研究 報告書

P.191～202

https://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/specialized_research/b-337